

まち・ひと・しごと創生

多気町総合戦略

平成28年1月

令和2年3月改訂

多気町

目次

第1章 はじめに	1
（1） 総合戦略策定の趣旨	1
（2） 計画の位置付け	1
（3） 計画の期間	1
第2章 目指すべき将来像	2
（1） 基本理念	2
（2） 目標とする将来像	2
（3） 目標人口	2
第3章 将来像を実現するための基本戦略	3
（1） 町民アンケート結果	3
（2） 町を取り巻く内部環境と外部環境	9
（3） SWOT分析	10
（4） 基本戦略と基本目標	11
第4章 まち・ひと・しごと政策プラン	13
（1） ひとの創生プロジェクト	13
（2） しごとの創生プロジェクト	15
（3） まちの創生プロジェクト	17
第5章 計画の推進	21
（1） PDCAサイクル	21
（2） 推進体制	22
（3） 進行管理スケジュール	22

第1章 はじめに

(1) 総合戦略策定の趣旨

我が国は、2008年をピークとして人口減少局面に入っており、今後、2050年には9,700万人程度、2100年には6,500万人を割り込む水準にまで減少するとの推計があります。

加えて、地方と東京圏との経済格差等が、若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中や過密都市における出生率の低下を招き、日本全体としての少子化、人口減少につながっています。

このように、地方は、人口減少を契機に、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルに陥るリスクが高くなっています。

このような課題に対し、現在、国及び地方公共団体では、人口減少に歯止めをかけ、地方の創生を目指す「まち・ひと・しごと創生」の取組が進められています。

平成26年11月28日に「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、当該市町村の区域の実情に応じた、まち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）を定めるよう努めなければならなくなりました。

本町は、このような背景のもと、人口減少の克服と地方創生を目指し、まち・ひと・しごと創生の好循環を確立するために、今回、「まち・ひと・しごと創生 多気町総合戦略」を策定します。

(2) 計画の位置付け

本計画は、本町における人口の現状と将来の展望を提示する「人口ビジョン」の目標人口と将来（60年後）の姿を見据え、その実現に必要な6年間の方策を示すものとなります。

本計画は、「“ええまち”づくりプラン（基本構想）」との整合を図り、リーディングプロジェクトとして取組を進めます。

(3) 計画の期間

総合戦略の計画期間は、平成27年度～令和2年度（2015年度～2020年度）の6年間とします。

第2章 目指すべき将来像

(1) 基本理念

本町のまちづくりの基本理念は、「住民と行政が共につくる安全なまち」、「環境にやさしい自然豊かなまち」、「地域の活力を生み出す産業のまち」、「安心した暮らしを支える福祉のまち」、「豊かな人を育てる教育文化のまち」、「地域を越えて人々が集う交流のまち」、そして「インフラの整った住みよいまち」です。

本計画においても、このまちづくりの基本理念のもと、本町の豊かな自然や、伊勢いも、柿、みかんなどの豊富な食材、高校生レストランを生み出した若者の夢を実現する土壌など、本町で育まれた多気力を活かし、まち・ひと・しごと創生のプロジェクトを展開することで、人口減少の歯止めと地域経済の活性化に取り組みます。

(2) 目標とする将来像

本町の目標とする将来像は、「“ええまち”づくりプラン（基本構想）」におけるまちづくりの目標である『つながる力 ふれあう心 共につくる “ええまち” 多気町』とします。

つながる力 ふれあう心 共につくる “ええまち” 多気町

〔“ええまち”の定義〕

本町のまちづくりにおける7つの基本理念

- ①「住民と行政が共につくる安全なまち」
- ②「環境にやさしい自然豊かなまち」
- ③「地域の活力を生み出す産業のまち」
- ④「安心した暮らしを支える福祉のまち」
- ⑤「豊かな人を育てる教育文化のまち」
- ⑥「地域を越えて人々が集う交流のまち」
- ⑦「インフラの整った住みよいまち」

これらが実現し、本町の豊かな自然や、伊勢いも、柿、みかんなどの豊富な食材、高校生レストランを生み出した若者の夢を実現する土壌を活かしたまちづくりを行うこと

本計画においては、まち・ひと・しごと創生の好循環を確立し、『“ええまち”多気町』の実現を目指します。

(3) 目標人口

人口ビジョンにおける人口の将来展望を踏まえ、2060年に11,500人を目標とします。

第3章 将来像を実現するための基本戦略

(1) 町民アンケート結果

人口ビジョン及び総合戦略を策定するための参考資料として、町民意識を把握するため、多気町民を対象に結婚・出産・子育て及び定住等に関するアンケート調査を実施しました。

1) 調査概要

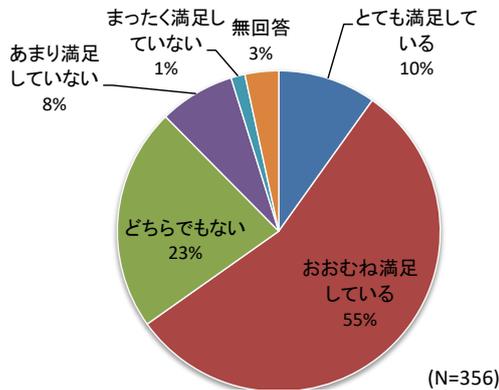
対象	項目	内容
地域全体	調査期間	平成27年6月5日(金)～平成27年7月1日(水)
	配布対象	多気町在住の18～50歳の町民
	調査方法	調査対象を無作為抽出し、配布・回収(郵送)
	回収状況	配布数：1,500通、回収数：356通(回収率：24.0%)
多気・勢和 中学校	調査期間	(多気中学校)平成27年6月4日(木)～平成27年6月11日(木) (勢和中学校)平成27年6月4日(木)～平成27年6月23日(火)
	配布対象	多気、勢和中学在籍の3年生
	調査方法	配布・回収(直接)
	回収状況	配布数：165通、回収数：165通(回収率：100%)
相可高校	調査期間	平成27年6月4日(木)～平成27年6月24日(水)
	配布対象	相可高校在籍の3年生
	調査方法	配布・回収(直接)
	回収状況	配布数：265通、回収数：265通(回収率：100%)
企業・事業所	調査期間	平成27年6月5日(金)～平成27年7月9日(木)
	配布対象	多気町に所在している企業・事業所
	調査方法	配布・回収(郵送)
	回収状況	配布数：60通、回収数：36通(回収率：60.0%)

2) 調査結果

①定住・帰郷に対する意識

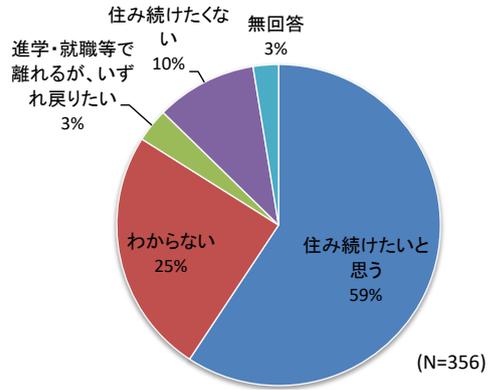
町民の約 6 割以上が、多気町の暮らしに「とても満足している」または「おおむね満足している」と評価しています。また、定住意向については、町民の約 6 割が「住みたい」と回答しています。

■多気町の暮らしの満足度



※ (対象：地域全体) アンケート

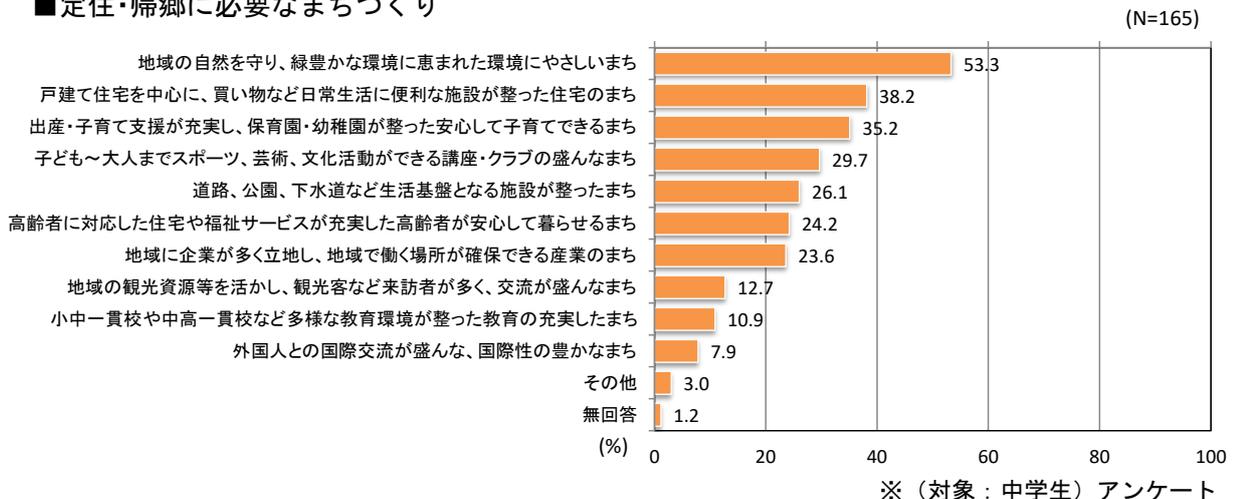
■定住意向

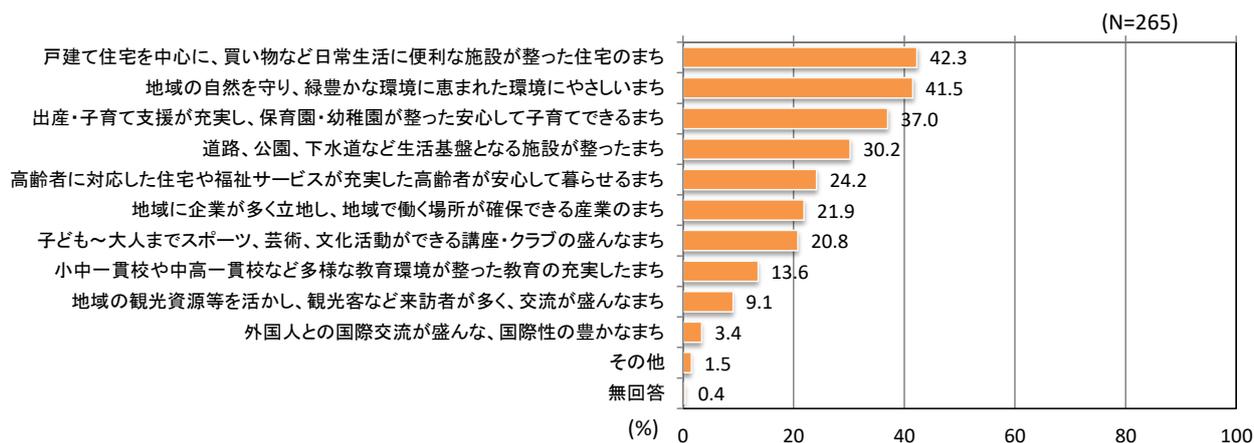


※ (対象：地域全体) アンケート

定住・帰郷に必要なまちづくりに関する要望では、中学生、高校生ともに「地域の自然を守り、緑豊かな環境に恵まれた環境にやさしいまち」が最も高く、次いで「戸建住宅を中心に、買い物など日常生活に便利な施設が整った住宅のまち」となっています。また、「出産・子育て支援が充実し、保育園・幼稚園が整った安心して子育てできるまち」といった子育て・教育環境の充実に対する意見も中学生、高校生ともに 4 割弱みられ、今後更なる充実を図る必要があります。

■定住・帰郷に必要なまちづくり



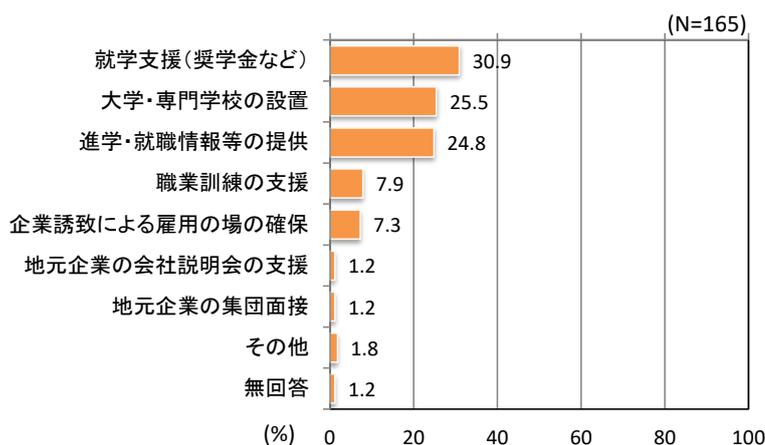


※（対象：高校生）アンケート

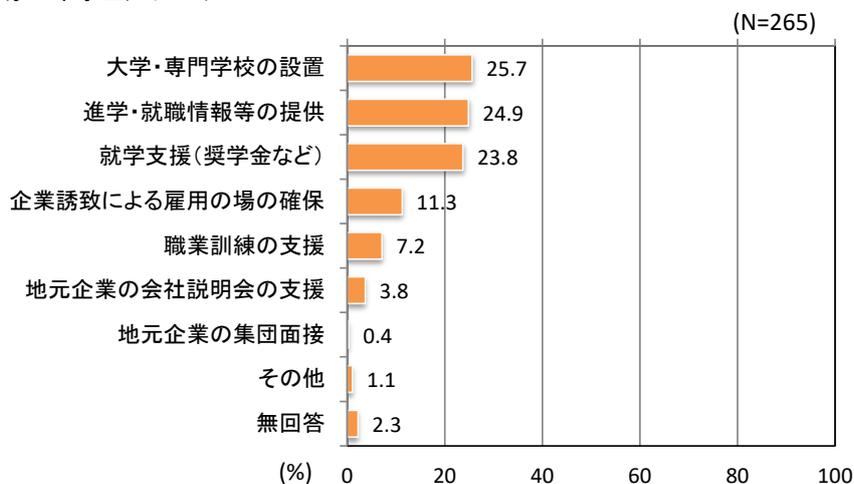
②就学・就労の支援策

就学・就労の支援策では、中学生、高校生ともに「就学支援（奨学金など）」、「大学・専門学校の設置」が上位に挙がっており、金銭面の支援や教育環境の整備が望まれています。

■進学や就職への支援策



※（対象：中学生）アンケート

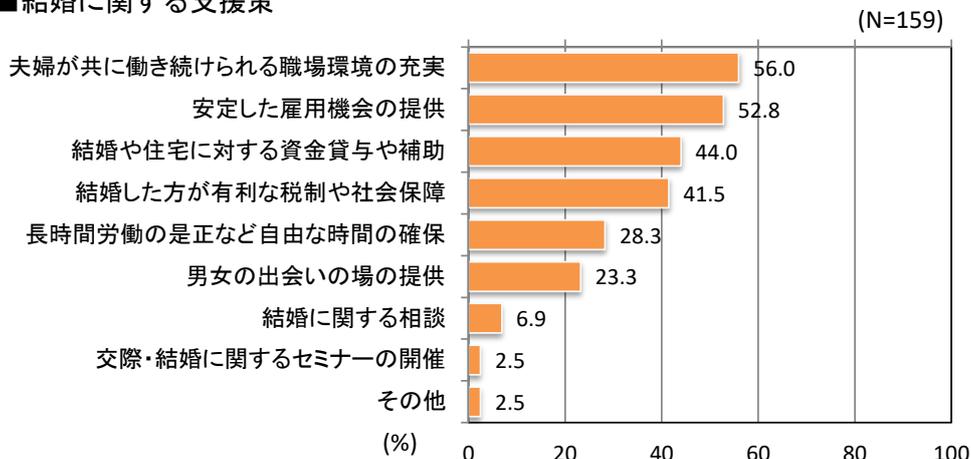


※（対象：高校生）アンケート

③結婚、出産・子育ての支援策

結婚の支援策では、「夫婦が共に働き続けられる職場環境の充実」が最も高く、次いで、「安定した雇用機会の提供」となっており、雇用環境の充実が求められています。

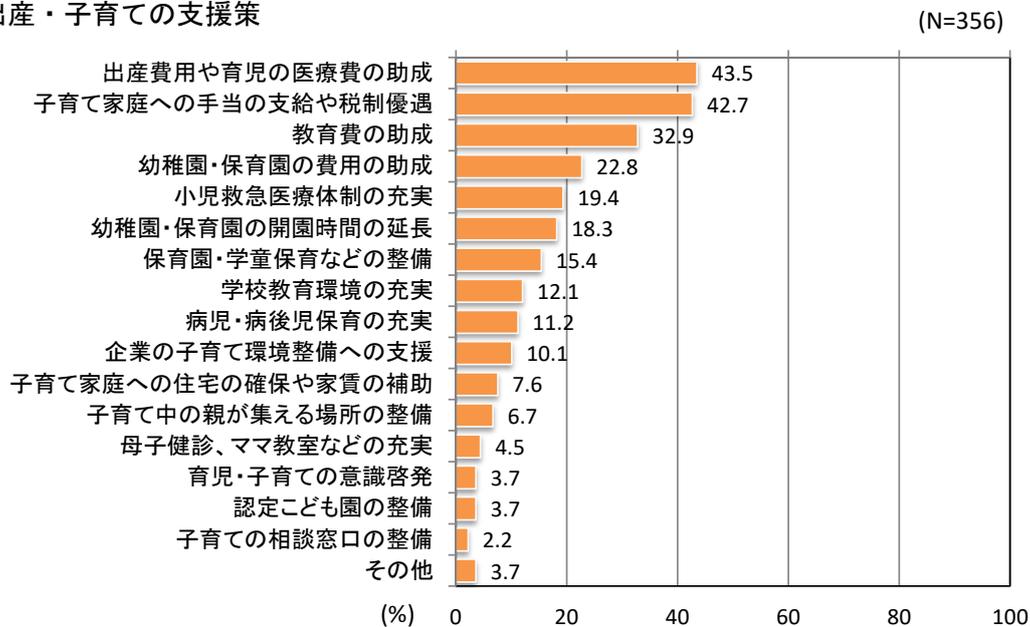
■結婚に関する支援策



※（対象：地域全体）アンケート

出産・子育ての支援策では、「出産費用や育児の医療費の助成」、「子育て家庭への手当の支給や税制優遇」、「教育費の助成」といった金銭面での支援が求められています。また、「小児救急医療体制の充実」、「幼稚園・保育園の開園時間の延長」といった医療環境や共働き世帯のための延長保育など、今後充実させていく必要があります。

■出産・子育ての支援策



※（対象：地域全体）アンケート

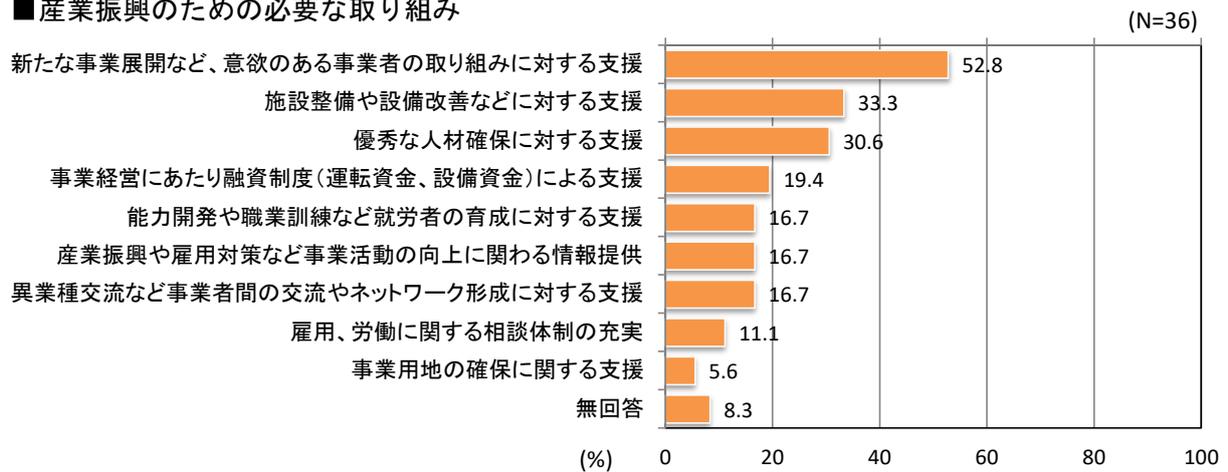
④産業振興・雇用対策の支援策

産業振興の支援策では、「新たな事業展開など、意欲のある事業者の取り組みに対する支援」が最も高く、次いで「施設整備や設備改善などに対する支援」となっています。

雇用対策の支援策では、「若者や学生の就職活動や就業意識の啓発に対する支援」が最も高く、次いで「雇用対策に取り組む企業への支援」となっています。

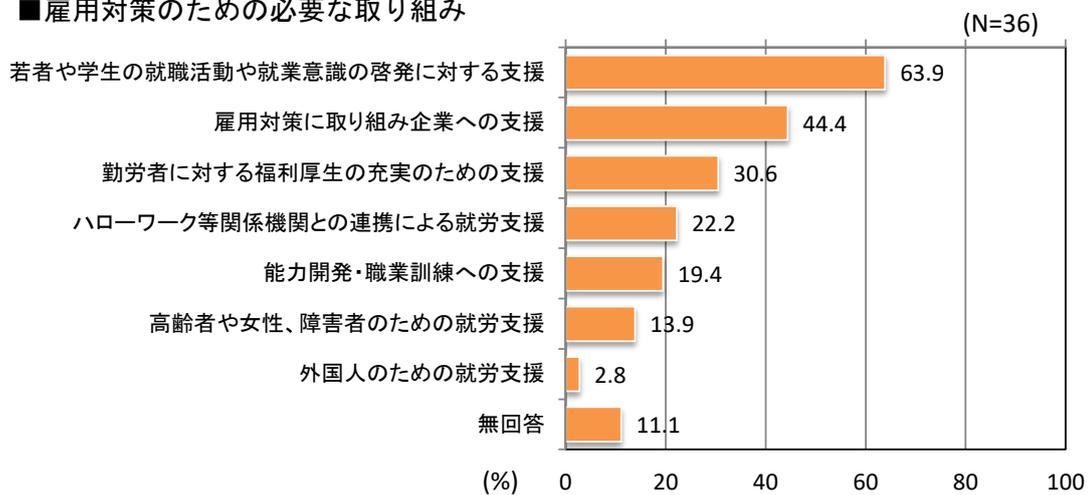
次世代を担う若者や学生に、就職や起業など、様々な選択肢を与えることの出来るまちにしていくことが求められています。

■産業振興のための必要な取り組み



※(対象：企業・事業所) アンケート

■雇用対策のための必要な取り組み



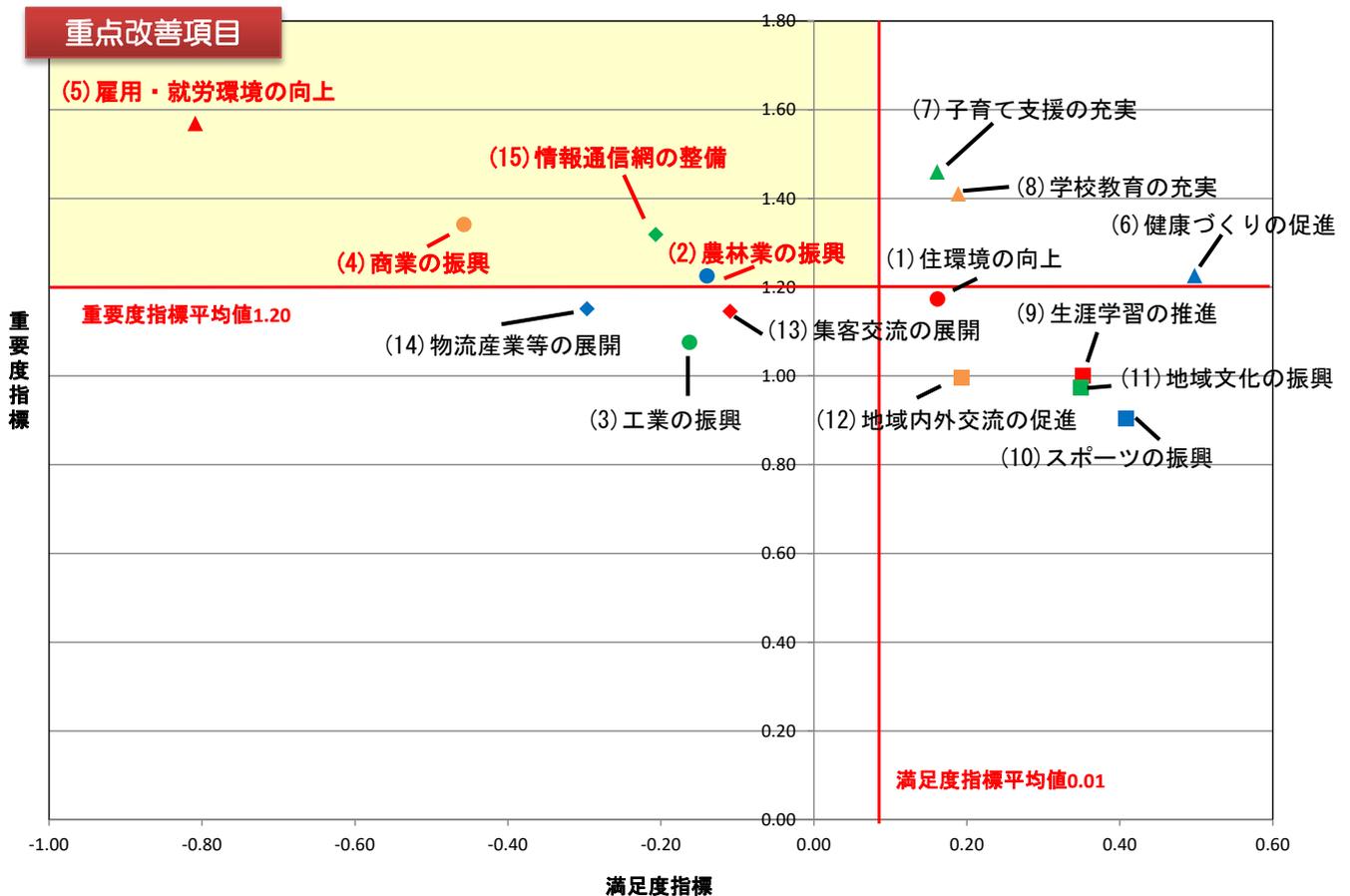
※(対象：企業・事業所) アンケート

⑤施策の重要改善項目について

施策の満足度や重要度を整理すると、各分野における重要度が高く満足度が低い重点改善項目は、「(2)農林業の振興」、「(4)商業の振興」、「(5)雇用・就労環境の向上」、「(15)情報通信網の整備」の4項目となっています。

今後、これらの項目に対して、重点的に取り組みをする必要があります。

■重点改善項目（重要度が高く満足度が低い）に分類された施策



(2) 町を取り巻く内部環境と外部環境

多気町を取り巻く 内部環境	
強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少段階が「第一段階」で人口減少の初期段階 山や川など豊かな自然環境の宝庫 他地域にない多気町の誇れるもの（まごの店、立梅用水など） 大手企業の立地 食べ物が美味しい（伊勢いも、柿、鮎など） 地域のつながりが強い 地元の貢献度、郷土愛の強さ 伊勢自動車道と紀勢自動車道とのJCTに位置 イベントや祭りの充実（あじさい祭り、みなび祭り、おいない祭り等） 国際交流が活発（多気と勢和中学校で外国人交流を実施） 多気クリスタル工業ゾーンの企業誘致 「みえライフノベーション総合特区」の指定 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展と人口減少 世帯人員の減少（大家族→核家族→単独と世帯構成が変化） 未婚率の上昇（男性は30～34歳、女性は25～29歳が上昇） 就業者数の減少（第1次産業、第2次産業） 観光資源（特産品、祭り等）の知名度が低い 地域活動やイベント内容の定着化 交通機関が脆弱（車がないと生活できない） スーパーや病院などの生活サービス施設不足 公園などの遊び場が少ない 若者の雇用ニーズと立地企業のミスマッチ 教育施設（高校・大学等）の不足

多気町を取り巻く 外部環境	
機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の高まり 食の安全・安心志向 増加する外国人観光客 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の成立 地方回帰への流れ（UIJターン、二地域居住など） ICT（情報通信技術）の普及による多様な働き方（テレワーク、サテライトオフィスなど） 観光地域づくりの推進 国土強靱化の推進 温泉複合リゾート施設「アクアイグニス」建設計画 木質バイオマス発電所建設計画 「伊勢志摩サミット」の開催 「マウンテンバイク国際レース」の開催 国際交流が活発（多気と勢和中学校で外国人交流を実施） SNS（Facebook、Twitterなど）の普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展による福祉ニーズの増加 生産者の高齢化、担い手不足 県内他都市への人口流出 人口減少に伴う地域コミュニティの活力低下 自然災害への対応 農業の後継者不足 グローバル化による主要企業への影響 空き家の増加

(3) SWOT分析

分析の前提条件である「まちの将来像」、「まちづくりの理念」及び人口ビジョンにおける「目指すべき将来の方向性」をもとに、内部環境、外部環境から想定される施策を整理します。

■ SWOT分析表

前提条件	内部環境	
<p>【まちの将来像】 つながる力 心れあう心 共につくる “ええまち” 多気町</p> <p>【まちづくりの理念】</p> <p>I 住民と行政が共につくる安全なまち II 環境にやさしい自然豊かなまち III 地域の活力を生み出す産業のまち IV 安心した暮らしを支える福祉のまち V 豊かな人を育てる教育文化のまち VI 地域を超えて人々が集う交流のまち VII インフラの整った住みよいまち</p> <p>【目指すべき将来の方向性】</p> <p>視点① 安定した安心して働けるしごとの創出 視点② 魅力ある地域づくりによる新しい人の流れを創出 視点③ 結婚・出産・子育ての希望の実現 視点④ 地域資源や経営資源を活用した地域活性化</p>	<p>多気町の強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少段階が「第一段階」で人口減少の初期段階 山や川など豊かな自然環境の宝庫 他地域にない多気町の誇れるもの（まごの店、立梅用水など） 大手企業の立地 食べ物が美味しい（伊勢いも、柿、鮎など） 地域のつながりが強い 地元の貢献度、郷土愛の強さ 伊勢自動車道と紀勢自動車道との JCT に位置 イベントや祭りの充実（あじさい祭り、みなび祭り、おいない祭り等） 国際交流が活発（多気と勢和中学校で外国人交流を実施） 多気クリスタル工業ゾーンの企業誘致 「みえライフイノベーション総合特区」の指定 	<p>多気町の弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展と人口減少 世帯人員の減少（大家族→核家族→単独と世帯構成が変化） 未婚率の上昇（男性は30～34歳、女性は25～29歳が上昇） 就業者数の減少（第1次産業、第2次産業） 観光資源（特産品、祭り等）の知名度が低い 地域活動やイベント内容の定着化 交通機関が脆弱（車がないと生活できない） スーパーや病院などの生活サービス施設不足 公園などの遊び場が少ない 若者の雇用ニーズと立地企業のミスマッチ 教育施設（高校・大学等）の不足
<p>外部環境</p> <p>多気町にとって好ましい機会 (Opportunities)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地産地消の高まり 食の安全・安心志向 増加する外国人観光客 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の成立 地方回帰への流れ（UIJ ターン、二地域居住など） ICT（情報通信技術）の普及による多様な働き方（テレワーク、サテライトオフィスなど） 観光地域づくりの推進 国土強靱化の推進 温泉複合リゾート施設「アクアイグニス」建設計画 木質バイオマス発電所建設計画 「伊勢志摩サミット」の開催 「マウンテンバイク国際レース」の開催 国際交流が活発（多気と勢和中学校で外国人交流を実施） SNS（Facebook、Twitter など）の普及促進 	<p>【さらなる成長のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農業、産業、観光、環境など地域資源を再認識し、地域資源を活かした観光地域づくりへの取り組み ●空家と豊かな自然環境を活かした多様なライフスタイルを実現する暮らしの提供による定住・移住促進の取り組み ●地域資源や産業を活かした特産品のブランド化への取り組み ●企業誘致やICT（情報通信技術）の活用による多様な働き方の提供と雇用促進の取り組み ●「みえライフイノベーション総合特区」や「アクアイグニス」、「木質バイオマス発電所」等を活用した新たな産業の創出や雇用の拡大の取り組み ●イベントや祭りなどの交流を通じた地域づくりの機運醸成の取り組み ●国際交流の拡大や外国人観光客向けインフォメーションの充実による外国人観光客の誘致を目指す取り組み 	<p>【弱みを改善するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●若者ニーズのマッチングによる定住促進や地域の魅力発信による都会からの移住促進の取り組み ●出産・子育ての充実による若者が早期結婚し、生活ができる魅力ある地域づくりの取り組み ●ICTを活用した就業機会の増加等による地域活性化への取り組み（家庭との両立による就労確保、子育て、高齢者・障害者介護を担う者の就業促進） ●情報通信網（無線LANアクセススポット拡大等）の整備に伴い、SNSを活用した、観光資源（特産品、祭り等）のPR促進の取り組み
<p>多気町にとって心配される脅威 (Threats)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展による福祉ニーズの増加 生産者の高齢化、担い手不足 県内他都市への人口流出 人口減少に伴う地域コミュニティの活力低下 自然災害への対応 農業の後継者不足 グローバル化による主要企業への影響 空き家の増加 	<p>【強みを活かし脅威を克服するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●元気な高齢者を新たな地域、町民活動の担い手として活かすための取り組み ●豊かな自然環境を活かした魅力創出による県内他都市への流出防止などの取り組み ●イベントや祭りなどの交流を通じた多気町の魅力発信による地方への移住者や新規就農者の受入れの取り組み ●多気クリスタル工業ゾーンの企業誘致や地元企業との雇用マッチングによる若者の地域雇用の促進の取り組み ●「みえライフイノベーション総合特区」や「アクアイグニス」、「木質バイオマス発電所」等を活用した地域産業の競争力強化の取り組み 	<p>【脅威を回避するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●魅力ある地域づくりによる定住者増加への取り組み ●介護等の環境整備による高齢化社会への対応などの取り組み ●災害に強い都市構造の形成による安全・安心なまちづくりへの取り組み

(4) 基本戦略と基本目標

まち・ひと・しごと創生の好循環を確立し、『つながる力 ふれあう心 共につくる “ええまち” 多気町』の実現を目指します。

『つながる力 ふれあう心 共につくる “ええまち” 多気町』を目指すために、基本戦略のもと、4つの基本目標を定め、まち・ひと・しごと創生のプロジェクトを展開します。

「地域力を高め、地域力で進めるまちづくり」による基本戦略のもと、「まち」が支え、「ひと」「しごと」の好循環を図る、まち・ひと・しごと創生のプロジェクトを展開します。

①人、産業、企業の育成・支援の取り組み

多気町に暮らす「子ども世代」「若者世代」「大人・子育て世代」「シルバー世代」の支援や人材育成、農業の担い手や企業支援など、地域力を高める取り組みを実施します。

②地域資源、経営資源を活用した取り組み

豊かな自然環境や食材、地場産業、地元企業など地域資源、経営資源を活用した地域活性化への取り組みを実施します。

ひとの創生

- 『高校生レストラン』を生み出した若者の夢が実現できる地域性を活かし、若い世代が出会い、安心して子どもを産み、育て、子どもたちが夢にチャレンジすることができる子育て・教育環境の創出

しごとの創生

- 行政、生産者、多気工業会など、地域が一体となった取組による身近で若者が安心して働け、安定した生活を送ることができる雇用環境の創出

地域力を高め、「ひと」「しごと」の好循環を図る

「地域力を高め、地域力で進めるまちづくり」

- ①人、産業、企業の育成・支援の取り組み
- ②地域資源、経営資源を活用した取り組み

地域力を活用し
「まち」を支える

まちの創生

- 歴史に培われた薬草・薬膳料理や伊勢いも、柿、みかんなど豊かな地域の食材を食し、誰もが健康で住みたい住み続けたい「医食同源」の暮らし環境の創出
- 「医食同源」の暮らし環境を活用し、「食・癒し」を発信するアクアイグニス多気と、ここでしか出会えない体験できない地域資源を結びつけた、人々が集い活気にあふれる交流環境の創出

基本目標 1

【ひとの創生プロジェクト】

『高校生レストラン』を生み出した若者の夢が実現できる地域性を活かし、若い世代が出会い、安心して子どもを産み、育て、子どもたちが夢にチャレンジすることができる子育て・教育環境の創出

出会いの機会づくり、妊娠から出産・子育て、教育に至る切れ目ない支援を行うなど、若い世代の人たちが安心して子どもを産み、子どもの心を育てることが出来る子育て環境を目指すとともに、『高校生レストラン』を生み出した若者の夢が実現できる地域性を活かし、多気町で生まれ育った全ての子どもたちが夢を持ち、夢にチャレンジすることができる環境の創出を目指します。

基本目標 2

【しごとの創生プロジェクト】

行政、生産者、多気工業会など、地域が一体となった取組による身近で若者が安心して働け、安定した生活を送ることができる雇用環境の創出

行政を中心に、生産者、多気工業会など、地域が一体となり、若者のニーズにマッチングした雇用の創出を図るとともに、相可高校や三重大学、生産者が連携し、本町の伝統野菜『伊勢いも』などの本町の地域資源を活用した産業振興を図るとともに、産業を伝承するための後継者育成や生産技術の向上に取り組み、働きたい人が身近で働くことのできる環境の創出を目指します。

基本目標 3

【まちの創生プロジェクト①】

歴史に培われた薬草・薬膳料理や伊勢いも、柿、みかんなど豊かな地域の食材を食し、誰もが健康で住みたい住み続けたい「医食同源」のくらし環境の創出

日本薬草学の先駆者野呂元丈の生誕地で歴史に培われた薬草・薬膳料理や豊かな自然環境において収穫される伊勢いも、柿、みかんなどの豊富な食材を食し、誰もが健康で住みたい住み続けたい「医食同源」のくらし環境の創出を目指します。

基本目標 4

【まちの創生プロジェクト②】

「医食同源」のくらし環境を活用し、「食・癒し」を発信するアクアイグニス多気と、ここでしか出会えない体験できない地域資源を結びつけた、人々が集い活気にあふれる交流環境の創出

「医食同源」のくらし環境を活用するとともに、人を呼び込む「食・癒し」を発信するアクアイグニス多気と地域の交流を促す『五桂池ふるさと村』『丹生大師』などここでしか出会えない、体験することができない地域資源や観光資源との連携により、観光客や交流人口の増加を図り、人々が集い活気にあふれる交流環境の創出を目指します。

第4章 まち・ひと・しごと政策プラン

(1) ひとの創生プロジェクト

■基本目標1 『高校生レストラン』を生み出した若者の夢が実現できる地域性を活かし、若い世代が出会い、安心して子どもを産み、育て、子どもたちが夢にチャレンジすることができる子育て・教育環境の創出

指標	基準値	目標値（令和2年度）
合計特殊出生率	1.47 (平成25年)	1.74

■基本的方向

出会いの機会づくり、妊娠から出産・子育て、教育に至る切れ目ない支援を行うなど、若い世代の人たちが安心して子どもを産み、子どもの心を育てることが出来る子育て環境を目指すとともに、『高校生レストラン』を生み出した若者の夢が実現できる地域性を活かし、多気町で生まれ育った全ての子どもたちが夢を持ち、夢にチャレンジすることができる環境の創出を目指します。

■具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○結婚支援の充実</p> <p>民間任意団体への補助を通じて、婚活イベントや婚活相談等、結婚にめぐり会えない若者たちの出会いを提供し、結婚促進を図ります。</p> <p>(具体的な事業)</p> <p>・縁結び事業</p>	<ul style="list-style-type: none">・結婚に至る組数：6年間で10組・イベント参加者：年間で男女各40名・婚活相談：年間で20名

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○子育て支援の充実</p> <p>放課後児童クラブや子育て支援センターを児童館に設置し運営を行い、地域全体で子育てを支援する基盤を形成することで、児童の健全な育成と児童福祉の向上を図ります。また、子育て経験者による育児中の親への子育てに関するアドバイスや情報提供をもとに、子どもを育てることの喜びなどを子育て経験者と語る場の創設、さらに、松阪地域定住自立圏域住民が利用できるように病児・病後児保育事業の維持に取り組みます。そして、少子化対策として子育て世代の負担を軽減する為、保育料等の軽減に取り組みます。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ事業 ・子育て支援センター事業 ・子育て経験者活用事業 ・病児・病後児保育広域対応事業の維持 ・保育料等の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ登録児童数：年間で100人 ・子育て支援センター利用者数：年間で10,000人 ・子育て経験支援者数：年間で40人
<p>○教育支援の推進</p> <p>各学校・各地域の特色を活かした学校づくりの取り組みや総合学習に取り組むための支援、書画カメラ・プロジェクター等の導入による教育におけるICT機器活用を推進します。また、地域が一体となって学力向上に向けた取り組みを支援することで子ども達の学力の定着・向上を図ります。また、台湾やキャマス市（アメリカ）の中学生との相互交流を推進し、次世代を担う中学生の国際感覚や新たな世界観・価値観を身に付けるための支援を行います。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくり推進事業費補助金 ・地域による学力向上支援事業補助金 ・キャマス市（アメリカ）との交流事業 ・台湾交流事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器各小中学校導入率：100% ・国際交流者数：年間で50人

(2) しごとの創生プロジェクト

■基本目標2 行政、生産者、多気工業会など、地域が一体となった取組による身近で若者が安心して働け、安定した生活を送ることができる雇用環境の創出

指標	基準値	目標値（令和2年度）
新規雇用者数	—	6年間で100人
新規企業立地件数	—	6年間で2件

■基本的方向

行政を中心に、生産者、多気工業会など、地域が一体となり、若者のニーズにマッチングした雇用の創出を図るとともに、相可高校や三重大学、生産者等が連携し、本町の伝統野菜『伊勢いも』や森林資源をはじめとしたバイオマスなど、地域資源を活用した産業振興を図るとともに、産業を伝承するための後継者育成や生産技術の向上に取り組み、働きたい人が身近で働くことのできる環境の創出を目指します。

■具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○雇用の促進</p> <p>労働力の確保に必要な広報活動及び情報収集を図り、労働力の定着のため、若年者及び障害者雇用に繋がる事業を推進する。また、地元就職支援のための啓発活動を推進し、地域で必要とされる人材の育成に向けて、企業関係者及び学校関係者との連携を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域連携による就労支援・雇用促進事業 ・ 地域経済雇用推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社説明会実施回数：年間1回 ・ 常雇従業員の町内移転者数：6年間で50人
<p>○農業の活性化と新規就農の促進</p> <p>地域農業の将来の担い手を育成するため、農業の経営及び技術習得に向けた研修を受ける新規就農予定者に対し支援を行います。また、近年、生産が減少している多気町の伝統野菜「伊勢いも」の生産振興のため、JA多気郡、生産者、三重大学、相可高校及び多気町が一体となって、後継者育成や生産技術の向上、販路開拓などの取り組みを行います。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規農業者育成研修制度事業 ・ 伊勢芋振興プロジェクト事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者数：6年間で10人 ・ 新規伊勢芋栽培者数：6年間で10人

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○企業立地支援</p> <p>新たに立地する企業に対し必要な奨励措置及び活動費の助成を講ずることにより、産業振興と雇用機会の創出を図ります。また、工業会活動経費に対して、創業者を包括的に支援するネットワークを構築し、準備期から事業安定期までの成長段階に応じた支援を行うことで、地域の産業力強化や新たな雇用の創出を図ります。</p> <p>松阪地域定住自立圏域内の企業経営者等を対象とした交流会、研修会等を開催し、人材育成及び企業間のビジネスマッチングを図ります。また、首都圏、関西圏及び中京圏の企業経営者を対象とした交流事業等を開催し、圏域への企業誘致に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新規企業立地件数：6年間で2件 • 奨励対象企業数：6年間で2社

(3) まちの創生プロジェクト

■基本目標3 歴史に培われた薬草・薬膳料理や伊勢いも、柿、みかんなど豊かな地域の食材を食し、誰もが健康で住みたい住み続けたい「医食同源」の暮らし環境の創出

指標	基準値	目標値（令和2年度）
社会増加数※1	—	6年間で50人

※1：一定期間における転入・転出に伴う人口の動き「転入-転出+その他の増減」

■基本的方向

日本薬草学の先駆者野呂元丈の生誕地で歴史に培われた薬草・薬膳料理や豊かな自然環境において収穫される伊勢いも、柿、みかんなどの豊富な食材を食し、誰もが健康で住みたい住み続けたい「医食同源」の暮らし環境の創出を目指します。

■具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○移住・定住の促進 空き家移住の支援や、JR多気駅裏の県道バイパス周辺の宅地開発やインフラ整備を進め、移住定住の促進を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家移住支援対策事業 ・新規住宅地整備支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家への移住件数：6年間で25件
<p>○空き家等の情報提供 商工会ユニオン等のネットワークを構築し、HPを開設することで、空き家や空き農地等の情報を提供し、さらに相談窓口を設け、様々な情報の一元化による効果的かつ効果的な情報提供を行い、移住定住の促進を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会との連携による空き家等情報提供事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数：年間で20件
<p>○健康づくり活動の推進 健康増進法に基づき、がん検診、肝炎ウイルス検査、骨粗鬆症健診、若年者健診を実施します。また、健康手帳の配布、健康教育、健康相談、歯科保健事業を実施することで、町民が地域において、元気に暮らしていけるよう支援します。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診事業 ・健康増進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診受診率割合：50%

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○地産地消の促進</p> <p>小学校5校・中学校2校の米飯給食を週3回から週5回に変更し、地元産米の消費拡大を推進します。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 完全米飯学校給食事業 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食による米消費量：6年間で40t増
<p>○地域資源の活用</p> <p>木質バイオマス発電所（多気バイオパワー）や、ORC熱電併給バイオマス発電所の立地に伴い、木質バイオマス資源確保のため、補助金等の支援を行います。バイオガス発電等も含め、CO2削減等による環境負荷の低減、森林環境等の再生、循環型社会の構築を図ります。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> バイオマス産業支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー発電量：年間で6,700kw（13,000世帯分）
<p>○魅力ある地域基盤の実現</p> <p>交通不便地域を解消し、町の公共交通ネットワークを構築するため、町営バス（幹線バス、予約運行小型バス、通学バス）を運行し、多気町民の利便性向上、交流範囲の拡大を図ります。</p> <p>ケーブルテレビ放送における町PR特別番組放送の支援や、要望の多い土日祝での観光施設等へのバス車両の乗り入れ運行などを検討し、魅力ある地域の実現を目指します。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビ事業 町営バス運行事業 	<ul style="list-style-type: none"> 予約運行バス 年間の利用者数：2,000人 ケーブルテレビ特別番組制作本数：年間6本

**■基本目標4 「医食同源」の暮らし環境を活用し、「食・癒し」を発信するアクア
アイグニス多気と、ここでしか出会えない体験できない地域資源を
結びつけた、人々が集い活気にあふれる交流環境の創出**

指標	基準値	目標値（令和2年）
観光入込客数※1	556,000人 （平成26年）	583,000人
滞在人口※2 （休日・14時の人口）	13,900人 （平成26年）	15,290人

※1：「観光入込客数統計に関する共通基準」（観光庁）に基づいた観光入込客数

※2：「地域経済分析システム（RESAS）」による休日・14時に滞在した人口

■基本的方向

「医食同源」の暮らし環境を活用するとともに、人を呼び込む「食・癒し」を発信するアクアアイグニス多気と地域の交流を促す『五桂池ふるさと村』『丹生大師』などここでしか出会えない、体験することができない地域資源や観光資源との連携により、観光客や交流人口の増加を図り、人々が集い活気にあふれる交流環境の創出を目指します。

■具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

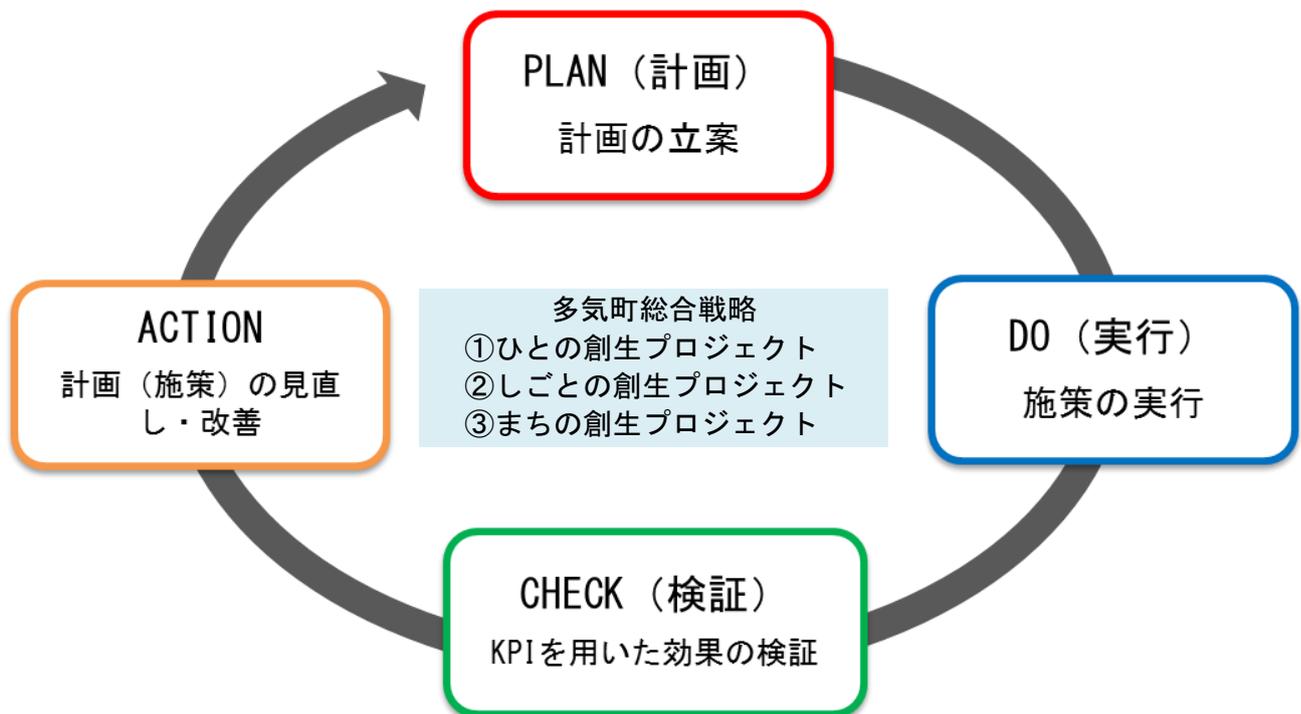
具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○観光客利便性の向上</p> <p>観光客に親切な案内板の設置やウェブサイトの充実、SNS（Facebook、Twitter など）を活用したPRの促進を図り、併せて観光資源のルート化（観光スポットをつなぐ周遊コースの作成）することで、観光客や交流人口の増加を図ります。また、主要観光施設の見直しや検討を行ない、ニーズに合った再活性化を進め、集客増を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光用の案内板やウェブサイト等充実事業 ・主要観光施設の活性化事業 ・五桂池ふるさと村活性化事業 	<p>・観光入込客数：583,000人 （平成26年556,000人）</p>

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
<p>○観光戦略の広域化</p> <p>観光協会、経済団体、自治体等からなる観光ネットワークを構築し、「自然」「歴史文化」「食」等の多彩な観光情報の集約及び情報発信を行うとともに、連携による新たな観光商品の造成に努め、観光交流人口の増加を図ります。また、マスコットキャラクターなどを作成し、町全体のブランド力、親近感・認知度アップを図ります。相可高等学校の食物調理科や生産経済科、関係機関等と連携し、農産加工品等の販売及びPRや地域資源のマッチングによる新たな付加価値の創造を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略の広域化事業 ・多気町のブランド化事業 ・地域資源を活用した地場産品の振興事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR 活動回数：年間で5回
<p>○地域づくりネットワークの構築</p> <p>松阪地域定住自立圏域市町の地域づくりに取り組む団体でネットワークを構築し、「圏域内の地域を元気に」をスローガンに、互いに交流を図り、情報共有及び情報の発信を行います。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり団体のネットワーク化事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり団体との交流イベント実施回数：年間で2回
<p>○リゾート観光施設の立地支援及び地域振興</p> <p>県中南勢地域の活性化が期待される滞在型複合リゾート施設の誘致に伴う集客のためのインフラ整備促進や、一方でこの事業の核となる「食・健康・農業」を担う地域おこし協力隊の活動を促進させ、地域ブランドや6次産業化、地場産品の開発・販売のPR、町民の生活支援を推進し、地域力の維持・強化を図っていきます。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路連結工事・幹線道路工事 ・地域おこし協力隊活動経費等支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊活動人数：年間で3人
<p>○観光PRの推進</p> <p>全国への情報発信を行うため、ふるさと納税制度を有効に活用します。大手ナビサイト等との連携により、日本全国の方を対象に幅広く多気町を周知します。また、ワンストップでクレジット決済が可能となることで、寄附者の利便性を図ります。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと応援寄附金事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数：583,000人（平成26年556,000人）

第5章 計画の推進

(1) PDCAサイクル

総合戦略においては、4つの基本目標ごとに成果指標を掲げるとともに、具体的な施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定し、これらにより政策の効果を検証し、改善を行う仕組み（PDCA サイクル）を構築します。

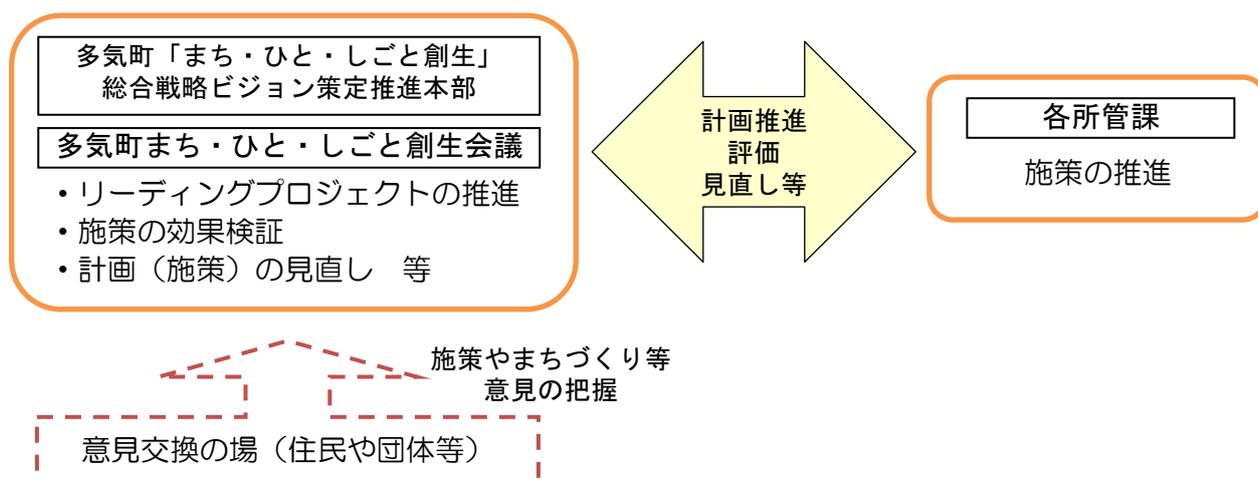


(2) 推進体制

まち・ひと・しごと創生法の制定に対応し、総合戦略の策定において、庁内における「多気町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略ビジョン策定推進本部」及び産官学金労、住民からなる「多気町まち・ひと・しごと創生会議」を設置しています。

これらの会議体が継続し、総合戦略における各施策の進捗状況や効果検証、施策の見直しなど実効性の観点から計画の推進を図ってまいります。

また、住民や団体等との「意見交換の場」を設け、総合戦略における施策効果やまちづくりに対する意見を把握しながら計画の推進を図ってまいります。



(3) 進行管理スケジュール

本計画の進行管理は、計画策定後の平成 28 年度（2016 年度）から毎年行うものとします。進行管理の手順としては、KPI に基づく進捗状況を把握し、『多気町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略ビジョン策定推進本部』『多気町まち・ひと・しごと創生会議』による評価を踏まえ、適宜、見直しや改善を図ります。

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目～
	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	平成 31 年 (2019 年)	令和 2 年 以降 (2020 年 以降)
計画の推進	→ 推進					
進捗状況の把握	→	→	→	→	→	→
各会議体による評価	■	■	■	■	■	■
計画の見直し		→ 部分見直し				→ 全体見直し